



今月は「インドネシア」を覚えてお祈りください

インドネシアは東南アジア南部に位置する共和制国家。首都はジャワ島に位置するジャカルタ。5,110kmと東西に非常に長く、また世界最多の島嶼を抱える国である。赤道にまたがる1万3,466もの大小の島により構成される。人口は2億3000万人を超える世界第4位の規模であり、また世界最大のイスラム人口国としても知られる。

インドネシアの経済・政治・宗教について

経済は成長し続けており、取引の中心は自然ガス、森林製品、農業や衣類や豊富な鉱石資源である。30年にわたる長期的な経済成長は1990年代後半のアジア経済危機や2000年代のリーマンショックによって止まってしまった。今でもゆるやかには成長しているものの、不安定な政治が成長を遅くしている。

ポルトガル、オランダ、英国、日本といった国々の植民地支配の歴史を経て、スカルノ大統領が1945年に独立を宣言した。スカルノ大統領は20年この国を治め、1965年にスハルト政権が支配を奪ったが1997年の経済危機がスハルト政権にとって大きな打撃となり、政権は崩壊した。その後、3つの政権が続き、2014年7月からはジョコ・ウィドドが大統領となっている。

インドネシア政府は6つの宗教を公表している:イスラム教、ヒンズー教、仏教、儒教、ローマカトリック、そしてプロテスタント。社会の中では、イスラム教の影響力が最も強い。

インドネシアのその他の情報

面積:1,919,317 km<sup>2</sup> (日本の約5倍) 人口:232,516,771(日本の約1.8倍 2010年時点)



水牛を用いて稲田を耕している様子。



首都ジャカルタの様子。

宗教:	
イスラム教	80.31%
キリスト教	15.85%
ヒンズー教	1.30%
土着宗教	1.20%
中国宗教	0.90%
仏教	0.40%
無宗教	0.04%

「主は、王だ。地は、こおどりし、多くの島々は喜べ。」詩編97:1

祈禱課題

広がり続けているイスラム教の力に対して

イスラム教の中には多くの多様性があり、信教の自由を確実になくしていこうとしている。彼らはクリスチャンをなくしていくことを目指している。多くのモスクを立てることや聖戦を大義にし、教会とクリスチャンへの迫害があとを絶たない。政府は過激なイスラムの動きを認めてはいないが、実際には止めるべきがない。これに反対するための強いリーダーシップが必要である。また、多くの場合、イスラム教徒に対するクリスチャンの反応は攻撃的なものであるから、教会には愛と知恵が必要である。

宣教のビジョン達成のために

イスラムの力が強まる中で、インドネシアの福音化のビジョンも一層強まっている。エキュメニカル教会、ペンテコステ教会と福音派教会は一致した宣教活動を目指している。インドネシアには実に1億人もの人々が未伝民族に属していると推測されている。1996年から、国や地域の協議会はこれらの人々に宣教の焦点をあてている。計画や戦略は着実に進行しており、未伝地には働き手が次々と送られている。

教会内が祝福されるように

インドネシアの教会は過去50年間成長し続けてきた。福音派の人口は130万人(インドネシア人口の1.4%)から1300万人(全人口の5.6%)まで増えている。外からはイスラムが迫っている中、教会は祝福されているものの問題もある。例えば、教団によっては生ぬるい信仰生活を送られており、信仰生活におけるリバイバルが必要である。多くがキリストの弟子とされている一方で、彼らを導くための敬虔な指導者が不足している。また聖書信仰とともに間違った教えやオカルト的な考え方が混ざっているところもある。いわゆる「メガチャーチ」的な教会もあるが、これらはキリスト教の前進に良いか悪いかはまだわかっていない。イスラム教からキリスト教に回心した人々は拒絶され、迫害を受けることが多い。